



「問いを立てる ―女子大におけるリベラル・アーツを考える―」活動報告

5月19日(月)女性研究者研究活動支援事業の啓発活動のひとつとして、第2回文理融合シンポジウム「問いを立てる―女子大におけるリベラル・アーツを考える」を開催しました。当日は、学長、学部長をはじめ、学部生、大学院生、教職員、卒業生、そして一般の方々も含め約100名が参加しました。



シンポジウムは黒崎政男教授(哲学専攻)の司会のもと、まず3名の方に話題を提供していただき、その後は司会者、講演者によるコメントに引き続き、フロアとの対話がおこなわれました。

まず、乗立雄輝教授(哲学専攻)に「人間を自由にする学としてのリベラル・アーツ」と題して、学問に関する寓話から始まり、学問の歴史的背景、アメリカにおけるリベラル・アーツ・カレッジについてふれたうえで、「問い方を学ぶ」こと、「感性の学としてのリベラル・アーツ」についてお話をいただきました。(写真:黒崎政男教授)

つぎに、加藤由花教授(情報理学専攻)からは科学・技術に関する仕事に従事してきた視点から、これまでのキャリアを交えながら、リベラル・アーツを学ぶことの意義についてお話をいただきました。学びは一生続くものであり、大学とは「学び方を学ぶところ」である事など、学びの深さと面白さを感じる内容でした。



最後に、東京女子大学で学び、障害者福祉センター・新設の福祉系短大での教員を経験され、現在本学の同窓会会長である山田純子会長から、まさに本学でのリベラルアーツが社会でどのように活かされてきたのかお話し、最後に「問いを立てる」ために、女子大に期待する事についてメッセージをいただきました。

(写真:山田純子会長)



フロアとの対話では・・・

「女子大におけるリベラル・アーツの意義」、「女性が女性として、自由に生きることができるリベラルアーツとは何か」等について意見や情報が交換されました。

また、学部の1年生からは逆に、「リベラル・アーツ以外の大学を知らないで、学部で専門を学ぶ大学では、どのような学びをするのか」という質問もできました。

(写真:乗立雄輝教授、加藤由花教授、山田純子会長)

終了後のアンケートでは・・・

「一般的な大学の学び方の問題点とリベラル・アーツによる学びを比べて頂けたら、教育のあり方についても、もっと見えてくるのかなと思いました。」

「様々な解釈を知ることができて90分があつというまででした。」

「具体的な話がリベラル・アーツの将来のあり方を考えるうえで参考になりました。」

「三人三様に面白い話でした。またこのような機会があれば参加したいと思いました。」等の意見が寄せられました。



【2014年度後期】研究支援員制度 利用者募集開始(7/1～7/31 〆切)

後期利用時期 10月1日以降

研究支援員制度とは？

女性研究者が出産・育児、介護に携わる期間、大学院生等を研究支援員として配置することにより、研究活動の継続を支援する制度です(*男性研究者は、配偶者が大学等の研究者である場合に限られます)。

現在、研究支援員制度の利用者は8名(介護3名、育児5名)。これまでのべ21名の方が利用しています。

必要な方はぜひ活用ください。

募集に関する詳細は、女性研究者支援室ホームページ'(URL:<http://www.sowr.jp>)をご参照ください。





Table Talk Vol.12 「院生の 院生による 院生のための会」 活動報告



6月10日(火) Table Talk Vol.12を開催しました。

記念すべき2014年度初のTable talkは、タイトル通り、本学の院生が院生のために開いた会となりました。

大学院生は人数が少ないため、孤独を感じやすいという声を聞きました。

他の院生が普段どこで、どのようなことを学んでいるのかは、意外と知らなかったりします。

進路のこと、将来のこと、院生生活のこと…

“院生だからこそ抱える悩みや想いを共有したい、少ない人数だからこそ、繋がりたい”

そのような強い想いを持った本学の院生2人と一緒に企画したのが今回のイベントでした。

当日話し合うテーマから会場の雰囲気、告知方法など、できるだけ多くの院生に参加していただけるように、一つ一つを丁寧に準備していきました。

当日は、院生14名、学部生1名、教職員3名の計18名が参加しました。

ラウンドテーブルを囲む、予想を超えた参加者の数に笑顔がこぼれました。

(写真：院生 岩本千秋さん・橋本実季さん)



新しい試みとして、今回は2つの箱が用意されました。

一つには参加者の名前が書かれた紙、もう一つには話し合うテーマが入っています。

それぞれの箱から紙を引き、名前を読み上げられた参加者が、もう一つの箱から引かれたテーマについて話すというものです。

参加者の皆さんもドキドキしながら、楽しそうに自分の順番を待っていました。

また、参加者には自ら記入したネームプレート为首から下げ、一緒に作り上げていく空間を大事にしたりしながら、お昼やお菓子を食べてつ、和気あいあいとした雰囲気を楽しみました。

東女の学部から院に進んだ方、他大からいらした方、社会人入試で入学された方。

様々な専攻、様々な年代を超えた院生が集まった初回は、大成功のうちに終わりました。

今後も院生同士が情報を共有できる場が維持できるよう、第2回目の開催を目標にしたいと思います。

最後に、参加して下さった皆様、そして企画の準備段階から携わった2人の院生に心からお礼を申し上げます。



次のテーブルトークは7月31日(木) 13:15～14:45 開催 会場：図書館1階プレゼンテーションルーム
韓国で開催される『平和について考えるプログラム』に参加する院生による報告の予定です。



「女性が拓く未来のテクノロジー Women In Engineering 2014」 開催

日時 平成26年7月5日(土) 13:00～17:30 場所 東京女子大学24号館24201教室 *事前申し込みが必要

世界最大規模のテクノロジー分野の学会であるIEEE(アイトリプルイー)JCWIEとの共催で上記のイベントを本学で開催します。

講演、ラウンドテーブルトークのファシリテーターとして本学の卒業生も登壇します。最先端の技術をまなび、交流するとても良い機会です。

多くの学部生・院生へ参加のよびかけをよろしくお願いいたします。詳細は、女性研究者支援室ホームページをご覧ください。

【登壇予定の卒業生】

平岡利枝さん 1985年数理学科卒 (株)三菱電機 「心をつかむ商品開発とは」

田中三喜子さん 1994年数理学科卒 (株)NTTドコモ 「現在の立ち位置、その立ち位置にいる理由と今後について」

川久保智恵さん 2002年数理学科卒 (株)日立ソリューションズ 「女性SEという職種について」

【登壇予定の本学の先生】 加藤由花教授 「学び続けるということ」



東京女子大学 女性研究者支援室

【住所】〒167-8585 東京都杉並区善福寺2-6-1

【場所】4号館 4202号室

【TEL】03-5382-6173 内線2466

【E-Mail】sowr@lab.twcu.ac.jp

【開室】(月)～(金)10:00～17:00

【URL】http://www.sowr.jp

【相談受付】(月)～(金)13:00～18:00 (予約はメールでお願いします)